

調 査 速 報

日本海スケトウダラ資源調査結果 ——計量魚探——

北海道立総合研究機構中央水産試験場(0135-23-7451)・稚内水産試験場(0162-32-7177)

函館水産試験場(0138-83-2892)

ホームページアドレス

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/suketou/index.html>

- ・魚探反応量は北部海域(利礼～雄冬沖)で前年比 1.1 倍, 南部海域(石狩湾以南)では前年比 0.9 倍
- ・漁獲対象資源の構成は, 4 歳魚(2012 年級群: 尾叉長 34～40cm)が多く, 次いで 6 歳魚(2010 年級群: 尾叉長 40 cm 台前半)
- ・北部海域では, 漁獲加入前の 0 歳(2016 年級群)及び 1 歳(2015 年級群)が多数分布

道総研水産試験場で実施したスケトウダラ計量魚探調査結果をお知らせします。

1. 調査海域と期間

- ・調査期間: 2016(平成28)年10月13日～26日
- ・調査海域: 水深150mより深い海域(図1)
- ・試験調査船: 北洋丸, 金星丸(計量魚探, 着底トロール)

2. 調査結果

計量魚探による海域全体の魚探反応量を図2, 体長組成を図3, 主要な調査ラインの魚探反応を図4, 水温環境について図5に示しました。

【魚群分布】

- ・スケトウダラの魚探反応量は, 北部海域では2015年比1.1倍, 南部海域では0.9倍でした。
- ・南部海域の魚探反応量を海域別に見ると, 石狩湾や岩内湾では2015年より増加しましたが, 檜山海域では2015年より減少しました(図2)。

【魚体サイズ】

- ・海域全体では4歳魚(2012年級群: 尾叉長34～40cm)と思われる魚が多く, 次いで6歳魚(2010年級群: 尾叉長40cm 台前半)と思われる魚が多く分布していました。留萌沖(T3), 岩内堆(T8), 奥尻海脚(T10)では6歳魚と思われる魚の割合も高くなりました(図3)。
- ・北部海域の武蔵堆東側から雄冬岬沖にかけて, 漁獲加入前の尾叉長10cm前後の0歳魚(2016年級群)と10cm台後半の1歳魚(2015年級群)が多く分布していました(図3)。
- ・北部海域では水深300m以浅で0歳や1歳の割合が高く, 300m以深で4歳魚や6歳魚と思われる魚の割合が高くなりました(図3)。

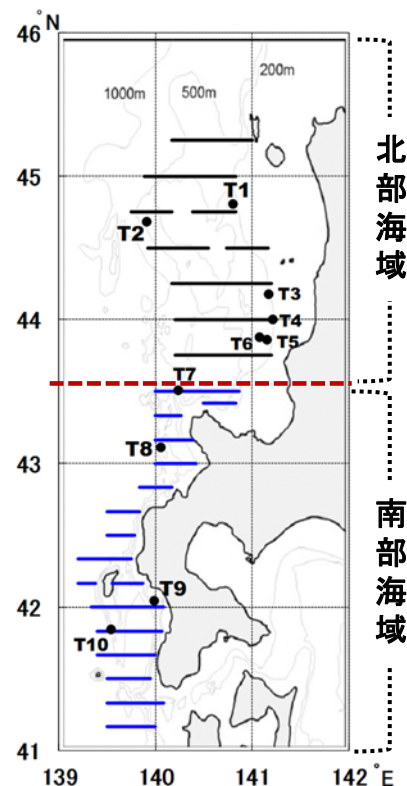


図1 調査海域

直線は魚探調査ライン(北部海域: 黒ライン, 南部海域: 青ライン)

●(T1～T10)はトロール調査

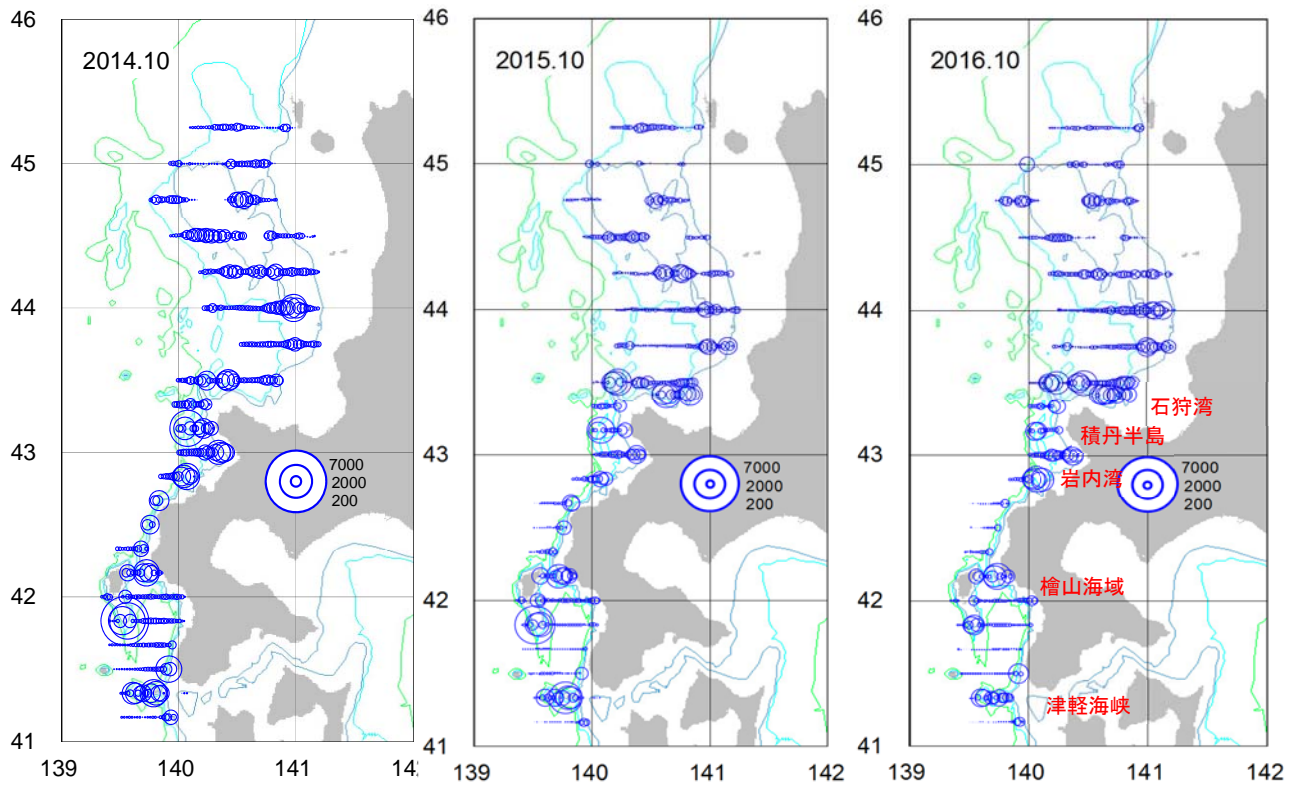


図2 スケトウダラの魚探反応量(NASC)

左:2014年, 中:2015年, 右:2016年(円の大きさは, スケトウダラの反応の強さを示す)

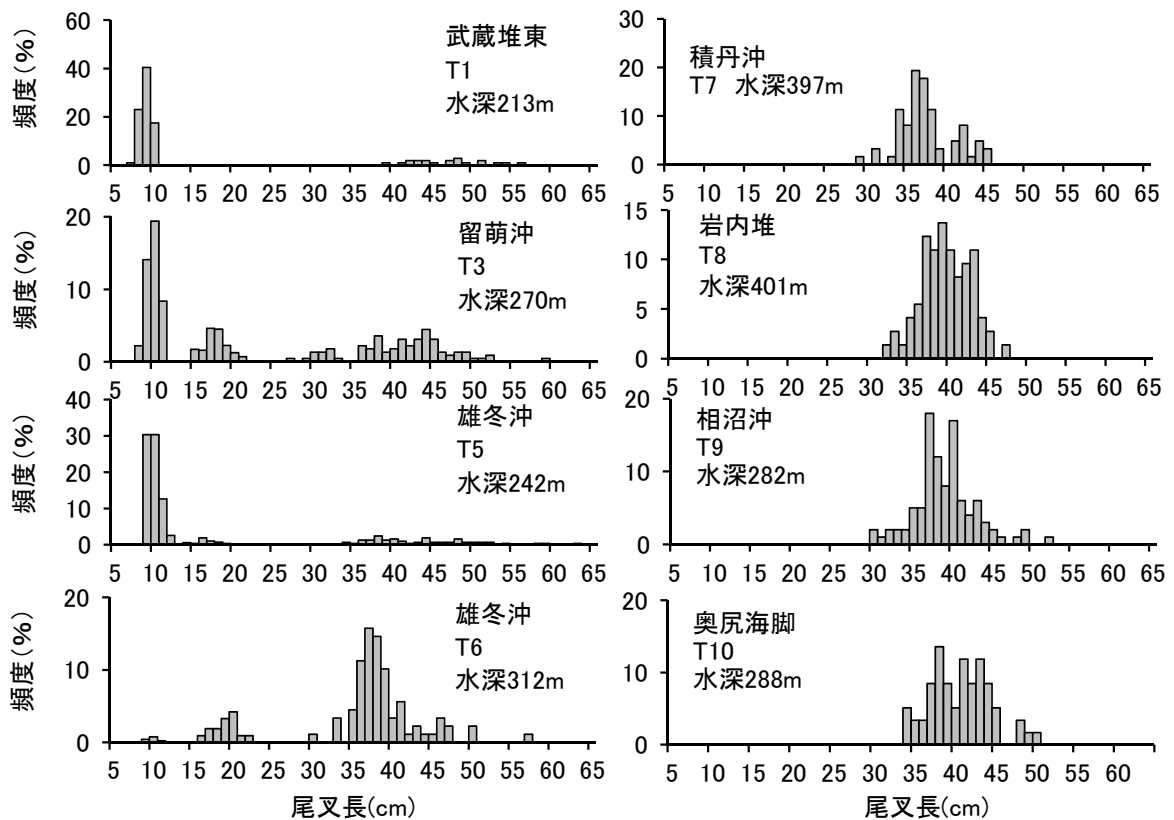


図3 トロール調査で採集されたスケトウダラの体長(尾叉長)

トロール地点は図1に示した。

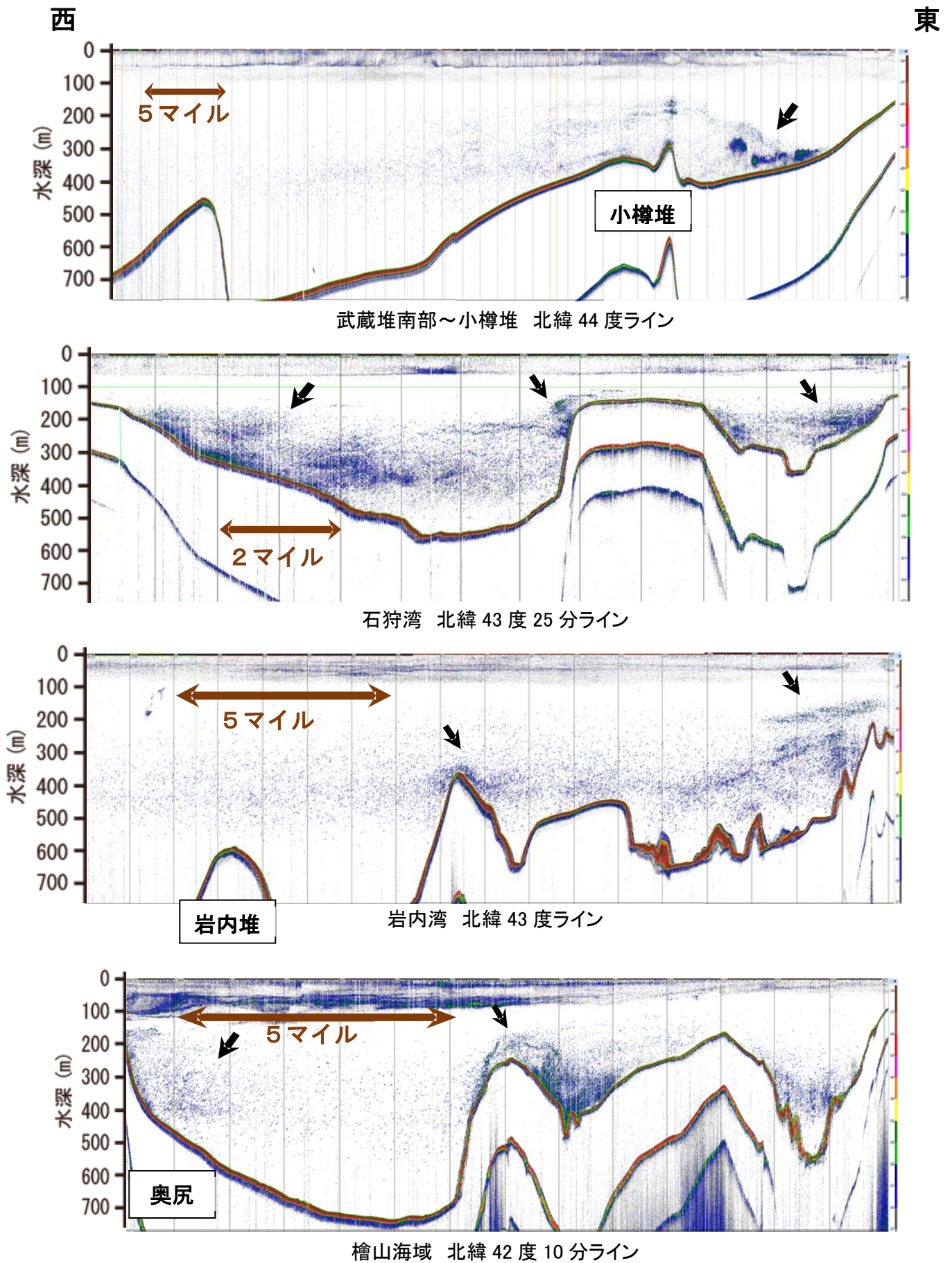


図4 スケトウダラの魚探反応図(夜間)
 ※矢印↙はスケトウダラと考えられる反応

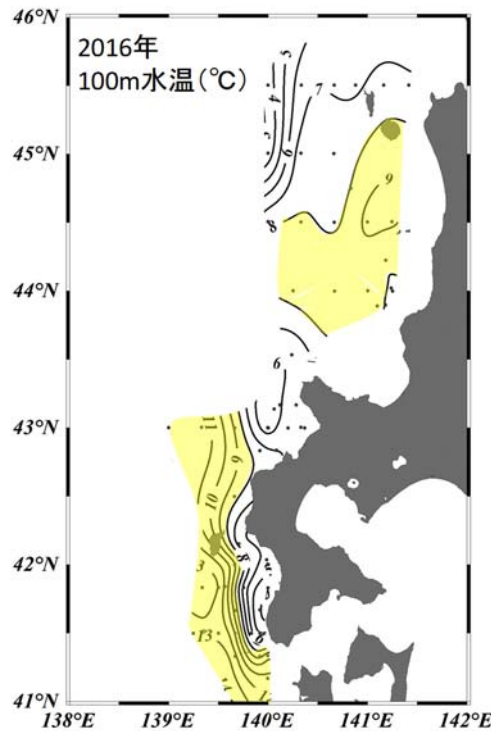


図5 9月下旬から10月下旬の道西日本海100m層水温分布図
(塗りつぶした範囲は水温8°C以上)

【水温環境】

9月下旬～10月下旬の道西日本海海域の100m層水温を見ると、スケトウダラの南下を妨げる暖水渦は確認されませんでした。また積丹半島以南の沿岸域では沖合に比べて水温が低くなっていました(図5)。

3. スケトウダラの来遊状況

2016年度漁期(11～3月)に漁獲対象となる資源は、4歳魚(2012年級群)と6歳魚(2010年級群)が主体で、岩内湾以南では北部海域より6歳魚の割合が高くなると予測されます。なお、資源量(現存量)については今後、詳細な分析を行って推定する予定です。

北部海域(の水深300m以浅海域)には2018年度以降の資源を構成する2015, 2016年級群が多く分布し、資源回復の兆しがみられています。漁獲適正サイズに達するまではできるだけ混獲を回避し大切にいくことが必要です。